

桃谷中学校

# 元気アップ通信

令和7年11月

気がついたら11月になっていました。こんな感じできっと12月も来るんだろうな。

文化発表会、桃中祭と楽しいイベントが終わって期末テストがひかえていますが、実のある11月にしましょう！

## 2学期期末テスト前自主学習会

11月18日（火）からは期末テストです。今回のテスト前の自主学習会も都合により一日しかありません。参加する方は時間の無駄のないようしっかり勉強に取り組んでください。

11月17日（月）放課後～17時 図書館

参加できるのは申込書に担任の先生のサインがある人だけです。  
必ず先生に提出してください。

学習プリントは図書館に  
あります。（3年生は3階の  
進路資料コーナーに）  
活用してくださいね！

## 2025・第79回読書週間

今年も10月27日から読書週間が始まっています。11月9日までの2週間で、半分過ぎてしまっていますが、全国の図書館や書店では様々なイベントが行われています。

今年の標語は【こころとあたまの、深呼吸。】

作者のことば

『めまぐるしい日常に息が詰まるとき、私は本を開きます。心が震え、  
ため息をつく。ハッと気がつき、息をのむ。ひと息ついて、まためくる。  
そしてこころとあたまに酸素がみちたら、どこまでも遠くへ泳いでいける  
気がします。』

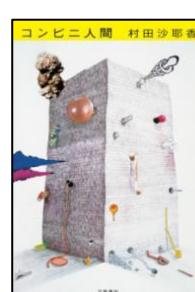
みなさんは“息が詰まるとき”ってありますか？そんなときどうやって解消していますか？忙しいときや気分が落ち着かないようなときは本を開いて息抜きをしてみてはどうでしょう。

### 『おんぶにだっこ』 さくらももこ



人一倍ナイーブで、なぜかいつも  
悩んでいた幼年期。「まる子」  
以前のピュアな気持ち初めて  
書き綴った、さくらももこの原点となる  
自伝的エッセイ。  
くすっと笑えて心があつたかくな  
ります。

### 『コンビニ人間』 村田沙耶香



コンビニのバイト歴18年の  
古倉恵子。夢の中でもレジを打ち  
誰よりも大きくお客様に声をかけ  
る。現代の実存を軽やかに問う  
作品。  
世界各国で翻訳され読まれてい  
ます。

## プロ野球ロスのあなたに

去年のシーズン終わりくらいから急に野球を観るようになりました。考えてみたら、野球に関する本がたくさんあって、甲子園を目指す球児の話やその子を支える母目線の話、球場を支えるグランドキーパーの話など多岐にわたります。

今回は日本シリーズも終わって野球ロスになりかけの、それ以前になっちゃっている人のために野球にまつわる本を紹介して行いたいと思います。

### 『大延長』 堂場瞬一

公立高校と私立の強豪の激突！しかも甲子園決勝。しかもしかも延長15回で決着がつかず、再試合にもつれこんだ。両校の監督は大学時代のバッテリー、両校選手達はのリトルリーグのチームメイト。お互いの手を知り尽くした戦いの行方はどうなるのか。



### 『甲子園だけが高校野球ではない』 岩崎夏海

甲子園出場を果たすことだけでなく、出場を果たせなかった学校や選手、女子マネージャー、支える家族、軟式野球部の話を雑誌記者や編集者が取材で集めた実話。その2もあります。

### 『アルプス席の母』 早見和真

野球をやってる人、特に甲子園を目指している人に読んでほしい。お母さんの気持ちが少しでも理解できるかな。あと、強豪校の内部事情が垣間見れた作品でした。野球だけじゃなく他のスポーツに取り組んでいる人にも読んでほしい。

機会があればお父さんやお母さんにも読んでもらってほしい。



### 『赤ヘル 1975』 重松清

原爆投下から30年が経った1975年、広島カープの帽子が紺から赤に変わり、東京から引っ越してきた一人の少年とやんちゃな野球少年、新聞記者志望の少年。多感な中学生の目線から見た広島、原爆、カープの物語。当時のカープの選手の実名が出てきたり、広島弁で物語が進むのがおもしろい。カープファン（いるのかな？）のみならず、虎ファンの人にも読んでほしい1冊です。

### 『あめつちのうた』 朝倉宏景

運動神経ゼロの雨宮大地は高校卒業後、高校野球の聖地・甲子園でグランドキーパーとして働くことに。グランドキーパーというお仕事小説と思いきや、家族の再生や友情の行方にハラハラしたり、何よりたまに出てくる球界裏話がおもしろい。

雨宮大地が就職したのは「神整備」と呼ばれるほど評価の高い『阪神園芸』という造園会社です。この会社について書かれた本、金沢健児『甲子園の神整備』もぜひ読んでほしい。



両方読むと甲子園整備の理解が深まります。